

新潟日報社.2005.11.4.

古原洋, 山下英雄, 山崎信弘.1996.北海道における水田雑草ミズアオイのスルホニルウレア系除草剤抵抗性.雑草研究 41 (別 1) :236-237.



ミズアオイの花



今年の生育状況 (2006.9.22)



ミズアオイの果実



ミズアオイの紹介看板



ミズアオイの種子と発芽状況



県立植物園での栽培状況
(新津第五中学校生徒による果実の採集)

「2階ニラ」

この写真のニラは、「野外博物館 道草コース」(長岡市立科学博物館主催)という身近な植物(雑草、一部栽培植物)の観察会で発見した。

この観察会のコースの中に、側溝などにニラがまとまって生育している駐車場がある。ニラは、もともとどこからか逸出したものだと思うが、日当たりが良いことと、側溝内は適度な水分があるのか生育状態は良好で、種子からの発芽した個体も見られるので3年ほど続けて観察に利用している。

2006年10月28日、この場所のニラは開花している個体と結実している個体があり、その様子を観察するため視線を近づけると、花茎の先端、散形花序が形成されている場所から葉のようなものが長く伸び出していた。これを良く見ると、葉ではなく小さいニラと思われる形をしている。周りのいくつかの花茎にも見付き、そのうちの一本では5cm程度に伸びた子ニラの先端に花がついて、2階建てに開花していた。2階建てになる長ネギがあるのは見たことがあり、花序の部分から子ネギ(時には孫ネギ)が伸びだすことも知っていたが、ニラでこのような形のものを見るのは初めてである。長ネギでは花序が込み入っていてよく分からなかったが、ニラの場合子ニラはどれも散形花序の根元から出ているようで、クローンが形成されているように見える。ニラと長ネギとは同じユリ科ネギ属なので同様の現象なのだろうか。

昨年度もこの観察会を実施し、この場所でニラを観察したはずだが、このような2階ニラの記録は無く、気がつかなかったのか無かったのかは分からない。また、この子ニラが成長しクローン繁殖するのだろうか、などの疑問についても経過を観察していきたい。

(櫻井 幸枝)